

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話 0267-56-3131 (呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時
電話 0267-56-1076 (呼)
- 立科町児童館/
午前 11時50分～午後1時40分
電話 0267-56-0303 (直通)
(担当 指導主事 中島 一彦)

共に生きようとするとき



練習を終え、テントの下に集う何人かの子どもたち。「～Aちゃん凄いなあ！最初から最後まで全力でさあ、先生、後ろからずっと見ていて感動しちゃったよ。」そんな声をT先生がかけてくださいました。

大ベテランT先生。運動会の演目のダンスを常に最後尾に位置し、子どもたちと踊り続けておられました。全体を指揮する青年教師O先生が相槌を打ちながら、「うまくなったって言えば、T先生もですね。最初の頃より、ずっとうまくなっていますよね。ずっと動きがいい」

そんなことをさらりと語ってくれました。

子どもと教師が共に学びうる豊かさが流れてきます。ダンスひとつひとつの動きを探究し続ける子どもたち。その姿を教師もまた歩み続けていたという事実。自分自身の閉じられた身体を目覚めさせるように、ごちなかつた細かな表現が大胆になっていくT先生の動き。閉塞感のあった身体が自由になっていくような解放感さえ感じることもできます。

いつの間にか編み込まれてきた自身の身体の硬さ。そこを脱していくような自由さをT先生は、子ども達と共に学ぶことで、少しずつ感じてきたのではないか。だからこそ、後ろから見続けてきた子どもたちの動きの姿に心から感動していく。

探究の時間を一緒に歩むことで、いや一緒に楽しむことで、子ども達とT先生の関係性が変わっていく。ゴールに向かわせるのではなく、その過程を共に生きようとするとき、指導と評価の対象ではなくなっていく子どもたち。

自分と違うものに対する愛情、自分と違うものの独立性を深く承認して、そのうえで、そのものについて知りたいという感覚が高まっていく教師の育ちを感じるのです。

「中島先生もどうですか？やってみませんか？」会話の最後にT先生から声をかけられました。ハツとしながら硬直した身体はもうどうしようもありません。

運動会のあとのこと

校庭運動会閉会式終了と同時に、テント支柱の紐を外し始めました。紐が外れると同時に、お二人のお母さんが支柱をたたむ準備に声をかけて、入ってくださいました。保護者の皆さんが少しずつ片付けに加わってくださいます。自分の出来ることを探しながら、てきぱきと動いてくださるお父さん。そんなお父さんを立科小教員だと勘違いし、「はい、こっち。この紐でここを縛って！」と横柄な態度で指示した中島。2人で縛りながら、指示を伝えた相手は、若いお父さんであること気づき、慌てて謝りました。気にせず共に活動をしてくださるお父さんのさわやかさ。

片づけが本当にスムーズに進み、入退場門の太い紅白の支柱とサッカーゴール四基が残りました。

小柄なお母さんが、会場全体に響き渡るような声を出してくださいます。

小走りでサッカーゴールに向かいながらのお母さんの呼びかけ。頼もしい学校の応援団。

「力のある人、男の人！サッカーゴールの所に集まって！」

そんな声に、たくさんの・・・なぜかお父さんではなく、お母さん方が集まり、片づけがスムーズに進みました。

その中にM先生の姿がありました。M先生がああ重いゴールを一人で横に倒した姿にヒヤリ・・・としながらバランスを取りながら怪力を発揮している姿と頭脳の明晰さに「すごい、さすが高校理科教師」と感動してしまいました。

手こずったのは斉藤PTA会長さん引き入る(?) 門柱二基グループ。

身長順に折り重なるように並んだお父さんたちによって引き揚げられ、ようやく抜けた白のポール。協力の見本のような抜け方でした。思わず拍手が起こります。二本目も同様にスムーズに抜けるのではないかと思われました。ところが何とも手のかかるポールでした。太い塩ビ管と木製ポールの間にはびっしりと砂が入り込み、固まった状態になり、なかなか抜けません。

力自慢の大柄なお父さんが一番高所から引き揚げます。次に背の高いお父さん、その下にさらに三人のお父さん。折り重なるように「せーのー」と渾身の力で引き揚げます。けれどもびくともしません。「フー」とお父さん方。

「フー」と見ていた周囲のお母さん方。

小柄で非力な自分にできる事はと考へ、詰まった砂を棒でかきだします。お母さん方が「次は私が・・・」と力を貸してくださいます・・・みんな必死でした。そんな時間の流れ。どなたかが決断をくだします。「塩ビ管ごと抜きましよう」その一言で、棒が詰まったままの塩ビ管を地中から抜き出し、倒しました。横倒しになった塩ビ管。2人のお父さんがハンマーで少しずつ塩ビ管を叩き、ようやく木製ポールが動き出します。みんなの見守る中、やっと棒が抜け出しました。一回目よりも大きな拍手が起こります。そこにおられたお父さん、お母さん・・・みんな良い顔をされていました。子どもたちの差し出してくれた一瞬一瞬の頑張りや充実の姿に、みんな満足しながら、そのことをエネルギーに学校に力を貸して下さっている姿のように思えました。子どもたちの頑なりに押されながら、お父さんやお母さんと仲良くなれた実感の生まれた小一時間。運動会で子どもたちが指し示してくれた生きることへのエネルギー。お父さんやお母さんの我が子へのワクワクがつながり、学校に豊かな時が流れ、幸せの輪が広がるような思いになりました。

地域と学校が繋がっているうれしさを感じさせていただきました。ありがとうございました。

